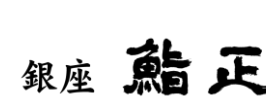


M&A実施に関する説明資料

2026年8月7日

SRSホールディングス株式会社（東証プライム：8163）



01	エグゼクティブサマリー	3
02	対象会社の概要	5
03	M&Aストラクチャーとインパクト	12
04	本件M&Aの戦略的意義、シナジー	14

01	エグゼクティブサマリー	3
02	対象会社の概要	5
03	M&Aストラクチャーとインパクト	12
04	本件M&Aの戦略的意義、シナジー	14

対象会社の概要

- ・対象会社となる株式会社京樽は、売上収益23,532百万円（IFRS基準、2025年9月期）、店舗数181店舗（2026年6月末）
- ・グルメ寿司事業（回転寿司みさき）が最大で、テイクアウト事業（京樽）と合わせて大半を占める
- ・他に外商事業、製造工場を保有

M&Aストラクチャーとインパクト *1

- ・株式譲渡日までに対象会社は第三者割当増資を実施し、債務超過の解消、純資産は約3,900百万円程度を見込む
- ・株式会社FOOD & LIFE COMPANIES（以下、F&LCと記載）が保有する対象会社株式のすべて（議決権割合の100.0%）を、当社が3,745百万円で取得（のれんの発生は限定的となる見込み）
- ・株式譲渡実行日 2026年（令和8年）9月1日（予定）
- ・単純合計で、当社売上は+31%、店舗数は+23%となる見込み

戦略的意義 *1

(1)中計目標である「グルメ寿司」圧倒的NO.1を実現

- ・「回転寿司みさき」のグループ化により、グループのグルメ寿司店舗数は201店舗（+89店舗）へ拡大
- ・当社試算グルメ寿司市場シェアは約25%（+約9pp）となり、トップのポジションをさらに強固に
- ・これまで手薄であった首都圏の店舗網を大幅に拡充（14→101店舗）
- ・対象会社は駅近・商業施設への出店を強みとし、当社のロードサイド中心の出店とカニバリなく出店拡大可能

(2)中食事業の獲得

- ・高い知名度を有する「京樽」と当社グループの商品開発力を融合し、競争力の高い中食ブランドを構築

(3)SRSグループの本部機能強化

- ・対象会社の製造工場を、当社グループ和食事業向けの生産拠点として機能を拡充させる
- ・本件により連結売上高1,000億円規模のグループとなり、人材や組織体制の強化を通じて本部機能の高度化を実現
- ・複数のグルメ寿司ブランドを展開し、食材調達や商品開発、人材育成など多くの分野でのシナジーを創出する
- ・自社製造機能をグループに取り込み、各種和食事業への供給体制を構築しグループシナジーの最大化を図る
- ・首都圏でのグループ店舗網拡大により、全国的な企業プレゼンスを高め、新たな投資家層の拡大を図る

シナジー等

*1 両社の通期売上、店舗数、当社が推計したシェアを単純合計し概算したもの

01	エグゼクティブサマリー	3
02	対象会社の概要	5
03	M&Aストラクチャーとインパクト	12
04	本件M&Aの戦略的意義、シナジー	14

対象会社の概要(1)

社名

株式会社京樽

本社所在地

東京都中央区日本橋人形町二丁目7番5号

代表者

代表取締役社長 武川 貴訓

主な事業内容

フードサービス業

- ・グルメ寿司事業（回転寿司みさき）
- ・テイクアウト事業（京樽）
- ・外商事業、その他事業

大株主

株式会社FOOD & LIFE COMPANIES 100.0%
（東証プライム：証券コード 3563）

創業

1932年

売上収益

23,532百万円

基本理念

私たちは食を通じて、たくさんの幸せを創ります。
私たちは、おいしさと健康と楽しさを提供し、
人々の普段の暮らしの中に幸せを創造します。
一人でも多くの人を笑顔にすること、それが私たち京樽の“しあわせづくり”です。

店舗数

181店舗

従業員数

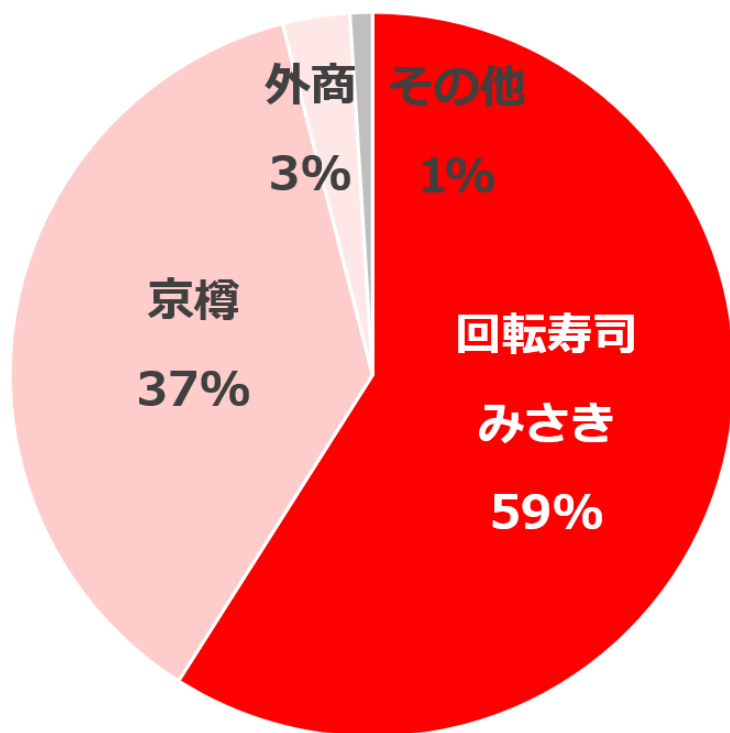
447人

*2

対象会社の概要(2)売上構成比、沿革

売上構成比

グルメ寿司事業（回転寿司みさき）が最大で、テイクアウト事業（京樽）と合わせて大半を占める^{*3}



^{*3} 「回転寿司みさき」の構成比には「すしみさき」も含む

主な沿革

年月	できごと
1932年3月	京都府下京区河原町松原に割烹料理店として創業
1938年3月	東京都中央区日本橋人形町に料亭「京樽」をオープンし東京進出
1980年7月	株式を東京証券取引所へ店頭銘柄として登録
1982年9月	東証二部上場
1984年6月	東証一部上場
1997年4月	上場廃止
2005年9月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2011年6月	上場廃止
2011年7月	株式交換により、株式会社吉野家ホールディングスの完全子会社となる
2021年4月	株式会社FOOD & LIFE COMPANIES の完全子会社となる

最近 3 年間の連結経営成績及び連結財政状態（IFRS基準）

（単位：百万円）

決算期	2023年（令和5年） 9月期	2024年（令和6年） 9月期	2025年（令和7年） 9月期	2026年（令和8年） 9月期3Q
資本合計	▲2,789	▲3,075	▲3,004	▲2,650
資産合計	12,252	11,689	11,172	10,958
売上収益	24,446	23,986	23,532	16,429
営業利益	▲653	▲352	60	441
親会社の所有者に 帰属する当期利益	▲560	▲311	96	345

対象会社の概要(4)主要事業ご紹介 グルメ寿司事業

「回転寿司みさき」概要



回転寿司 みさき

売上 : 13,725百万円

店舗数 : 89店舗

特徴 :

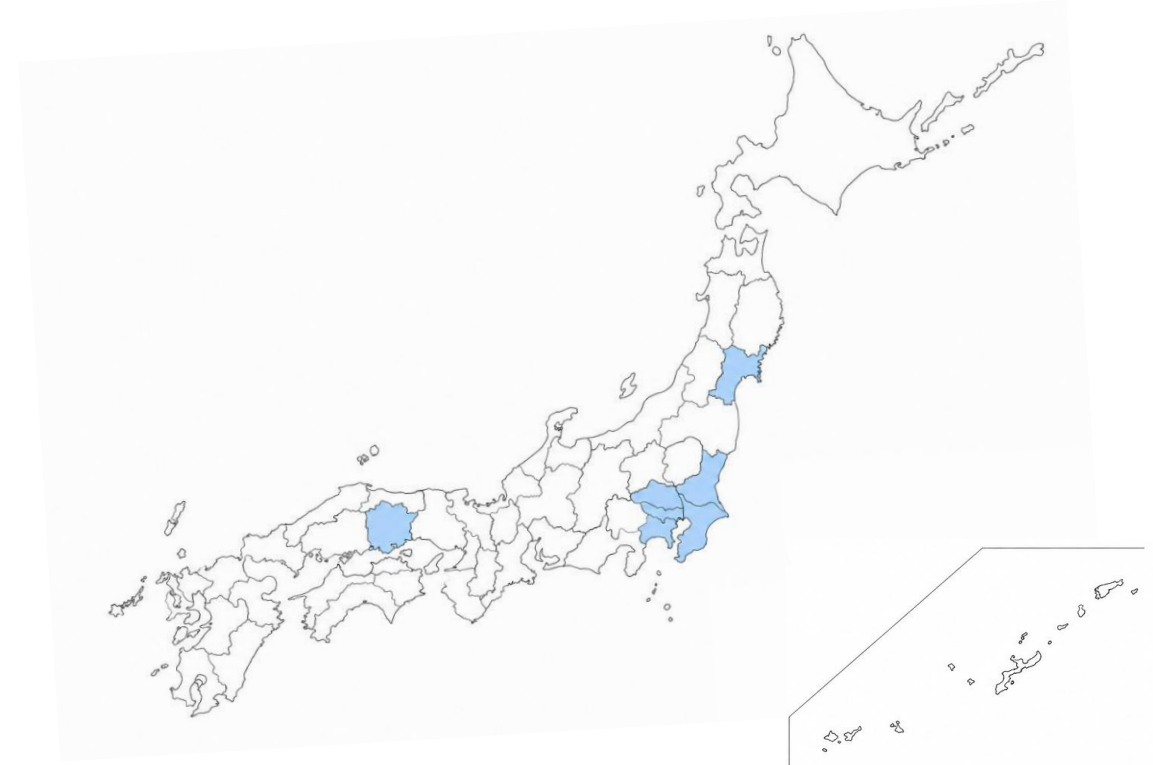
- ・豊洲市場直送の旬ネタや絶品本まぐろを提供するグルメ寿司「回転寿司みさき」「すしみさき」など複数ブランドで店舗展開
- ・江戸前寿司伝統の熟成酒粕の赤酢を使用した「特製赤シャリ」を提供するのが特徴



出店地域

*4

- ・店舗は首都圏、特に東京、神奈川、埼玉、千葉に85店舗（96%）が集中
- ・店舗立地は駅近・駅ビル、商業施設内が中心



*4 売上は2025年9月期実績。店舗数は2026年6月末時点、他の複数ブランド、競馬場店舗を含む。譲渡実行日までに変動する可能性があります

© SRS HOLDINGS CO.,LTD. All rights reserved.

「京樽」概要

売上 : 8,556百万円

店舗数 : 92店舗

特徴 :

- ・ 上方鮨、江戸前鮨等の製造販売
- ・ 伝統の「茶きん鮨」や上方鮨をはじめとした、上質なテイクアウトすし専門店「京樽」など複数ブランドで店舗展開

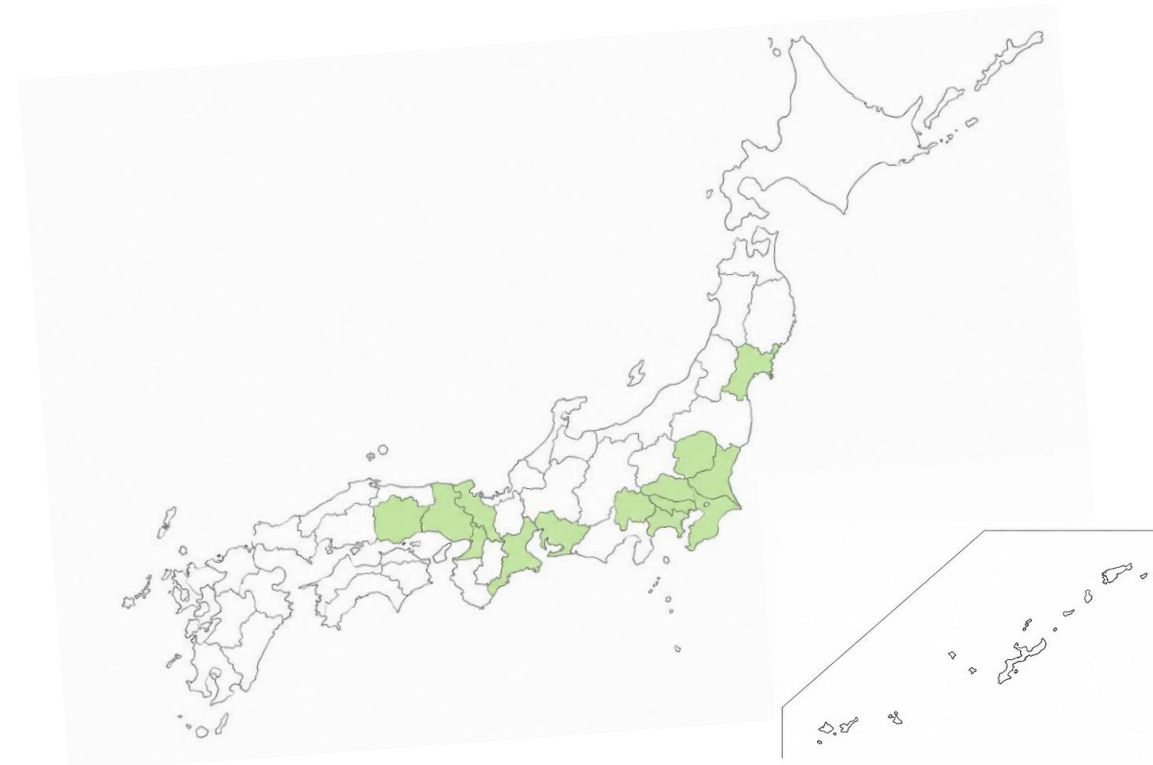
京樽



出店地域

*5

- ・ 店舗は首都圏、特に東京、神奈川、埼玉、千葉に79店舗（86%）が集中
- ・ 店舗立地は駅近・駅ビル、百貨店、商業施設内、路面店と幅広く展開



*5 売上は2025年9月期実績。店舗数は2026年6月末時点、他の複数ブランドを含む。譲渡実行日までに変動する可能性があります

© SRS HOLDINGS CO.,LTD. All rights reserved.

外商事業の概要

*6

売上 : 778百万円

特徴 :

- ・製造工場を活用し、店舗では対応が難しい大口注文や大量受注に対応
- ・オリジナル商品の開発やOEM供給に加え、冠婚葬祭や企業・団体向けの大口径注文を担う
- ・BtoB販売に注力し、事業規模が拡大している

製造工場（セントラルキッチン）

竣工 : 1987年3月

所在地 : 千葉県船橋市高瀬町24-10

敷地面積 : 14,371.95平米（4,355坪）

延床面積 : 7,252.54平米

従業員数 : 210名 *7

主な生産品目 : 炊飯米（酢飯、白飯）、弁当、上方鮓、おむすび、いなり他

特徴 :

- ・配荷先店舗に近い、千葉県湾岸エリアに立地する、24時間稼働のセントラルキッチン
- ・店舗への「シャリ」の供給、外商向け商品供給およびキッチンレス店舗向け寿司商品の加工・製造を担う
- ・将来的な機能拡充にも対応可能な十分なキャパシティを有する

*6 売上は2025年9月期実績

*7 製造工場の従業員数には社員、パートナー含む

01	エグゼクティブサマリー	3
02	対象会社の概要	5
03	M&Aストラクチャーとインパクト	12
04	本件M&Aの戦略的意義、シナジー	14

本件M&Aのストラクチャーとインパクト

本件M&Aのストラクチャー概要

＜株式譲渡前の実行＞

- ・株式譲渡実行日までに、F & LCは対象会社の第三者割当増資（6,480百万円）を引き受ける予定
- ・これにより債務超過は解消され、純資産は約3,900百万円となる見込み

＜株式譲渡内容＞

- ・F & LCが保有する対象会社株式のすべて（議決権割合の100.0%）を、当社が3,745百万円で取得

＜のれんの発生見込＞

- ・株式取得に伴うのれんの発生は限定的となる見込み

本件M&Aの実行スケジュール

契約締結日 2026年（令和8年）8月7日

株式譲渡実行日 2026年（令和8年）9月1日（予定）

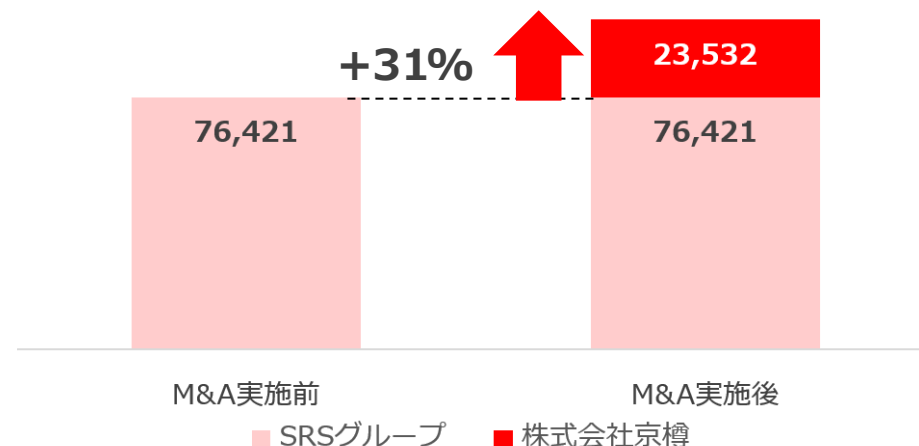
※当社株主優待制度の適用を早期に開始できるよう準備

本件M&A実施のインパクト（単純合計）

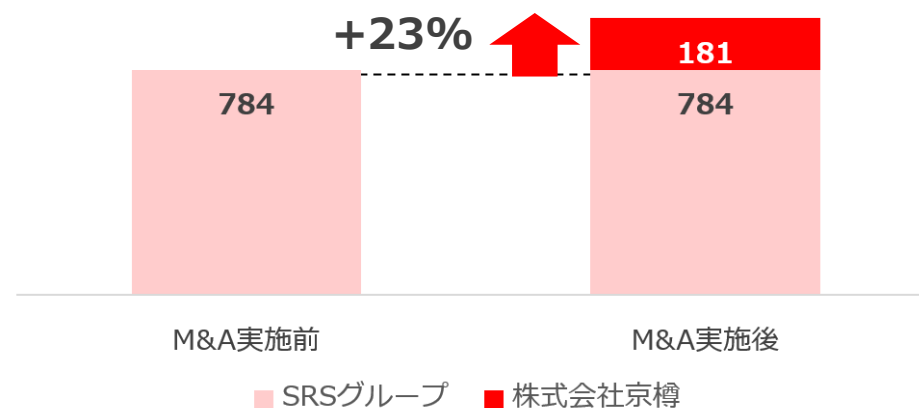
*7

売上

（単位：百万円）



店舗数



*7 売上は、SRSグループは2026年3月期、株式会社京樽は2025年9月期。通期の効果を概算したもの。店舗数は2026年6月末時点。

01	エグゼクティブサマリー	3
02	対象会社の概要	5
03	M&Aストラクチャーとインパクト	12
04	本件M&Aの戦略的意義、シナジー	14

本件M&Aは当社の重点戦略に合致し、事業成長と中期経営計画の達成を加速する

(1)重点戦略「グルメ寿司チェーン圧倒的NO.1」を実現

当社グループは、「グルメ寿司」事業を和食ファミリーレストラン事業と並ぶ重要事業と位置づけ、オーガニック成長とM&Aの両輪による全国展開を推進してきた

本件はその成長戦略に合致し、首都圏での店舗網拡大に加え、駅近・商業施設立地への出店事業を獲得することで、グルメ寿司事業のさらなる成長を実現する

これにより、グルメ寿司市場カテゴリーでのトップシェアを一層強固なものとする

(2)重点戦略「第3、第4の収益の柱」確立を目指した中食事業の強化

当社グループは、外食に加え、中食分野を通じて食に貢献することを目指してきた。「京樽」の高いブランド力と長年培ってきた中食ノウハウを、当社が和食外食事業で培った商品開発力や多くのM&Aを通じて蓄積した経営ノウハウと融合させることで、ブランド価値の一層の向上を図る。これにより、重点戦略で掲げる「第3、第4の収益の柱」の1つとして中食事業を確立させることを目指す

(3)SRSグループ全体の強化

- ・ 製造工場（セントラルキッチン）は、当社グループ内で最大の生産拠点となる。当社グループ向けに機能拡充を検討
- ・ 今後、M&A後のグループ統合に取り組み、本部機能強化を加速

- 本件M&Aの実行により、中期経営計画の重点戦略Ⅱ～Ⅳでシナジーを創出し、中期経営計画の達成を加速

中期経営計画については、当社ホームページをご参照ください

<https://srsholdings.com/pages/ir-vision/>

＜基本方針＞

既存事業の飛躍的な発展と新たな収益基盤の
確立による和食チェーングループ圧倒的No. 1の実現



戦略的
意義(3)

＜重点戦略Ⅰ＞

“和食さと”の
ナショナルブランド化



戦略的
意義(1)

＜重点戦略Ⅱ＞

“にぎり長次郎” “うまい鰯勘”
でグルメ寿司チェーン
圧倒的No.1の実現



戦略的
意義(2)

＜重点戦略Ⅲ＞

第3、第4の収益の柱
となる事業の確立



＜重点戦略Ⅳ＞

売上高1,000億円超を支えるグループ機能の強化とサステナブル経営の推進

戦略的
意義(3)

戦略的意義(1)「グルメ寿司」圧倒的NO.1を実現

グルメ寿司の展開地域の拡大、首都圏強化

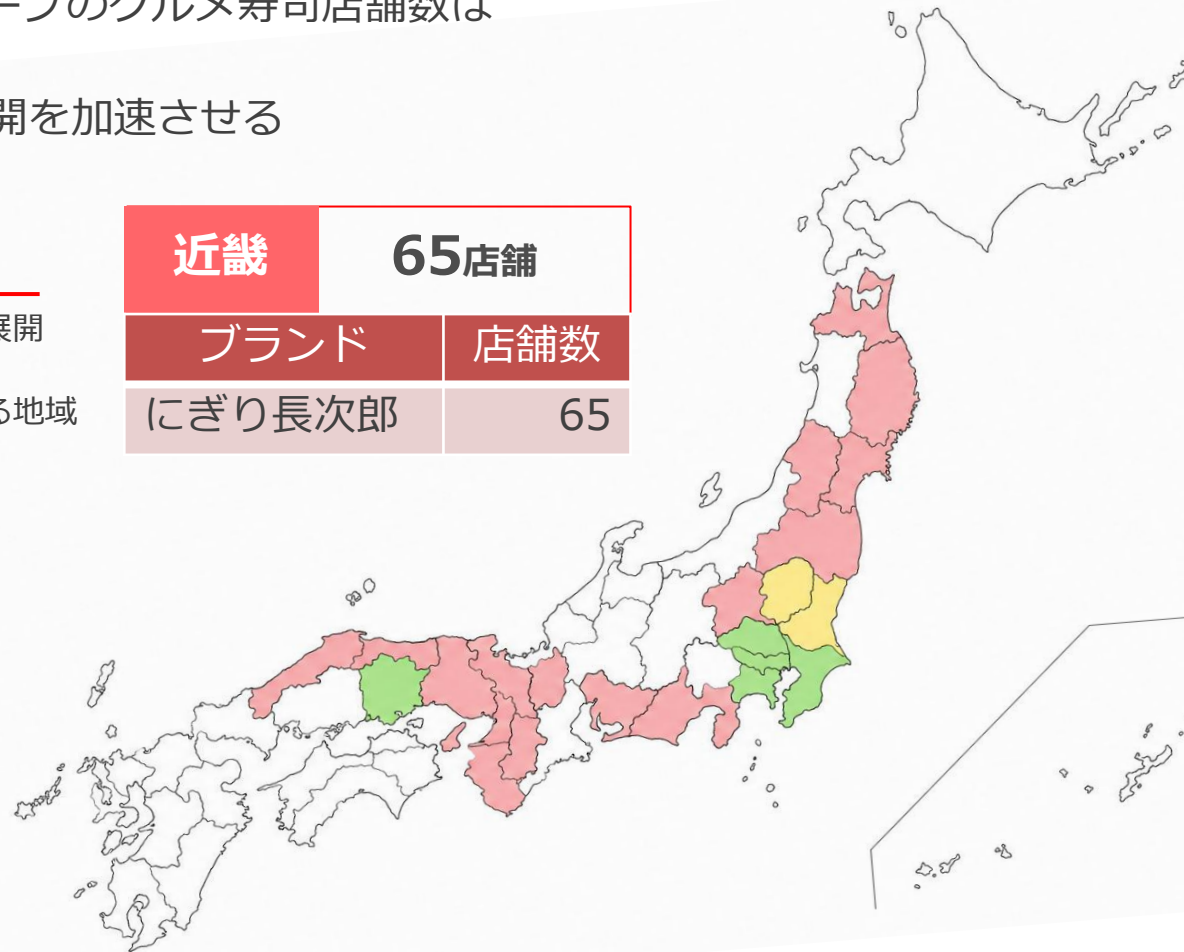
- ・首都圏に87店舗、全国で89店舗を展開する「回転寿司 みさき」が加わり、当社グループのグルメ寿司店舗数は201店舗に増加*9
- ・グルメ寿司チェーンの全国展開を加速させる

当社グループグルメ寿司の 店舗数変化（単純合計）*8*9

- 主にSRSグループのグルメ寿司が展開する地域
- 主に「回転寿司みさき」が展開する地域
- 両社がともに展開する地域

中四国	
6店舗 ⇒ 7店舗	
ブランド	店舗数
回転すし北海道・すし弁慶	6
回転寿司みさき	1

近畿	
65店舗	
ブランド	店舗数
にぎり長次郎	65



東北	
19店舗 ⇒ 20店舗	
ブランド	店舗数
うまい鮎勘	19
回転寿司みさき	1

首都圏	
14店舗 ⇒ 101店舗	
ブランド	店舗数
うまい鮎勘	8
まるくに	4
にぎり長次郎	2
回転寿司みさき	87

中部・東海	
8店舗	
ブランド	店舗数
にぎり長次郎	7
うまい鮎勘	1

*8 「うまい鮎勘」「回転寿司みさき」とも関連する複数ブランドの店舗を含む。「まるかん」は含まない。

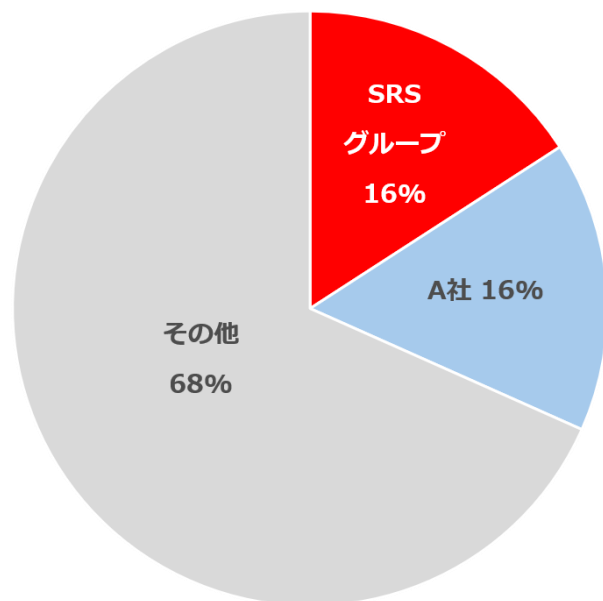
*9 両社の店舗数単純合計したもの。店舗数は2026年6月末時点。

戦略的意義(1)「グルメ寿司」圧倒的NO.1を実現

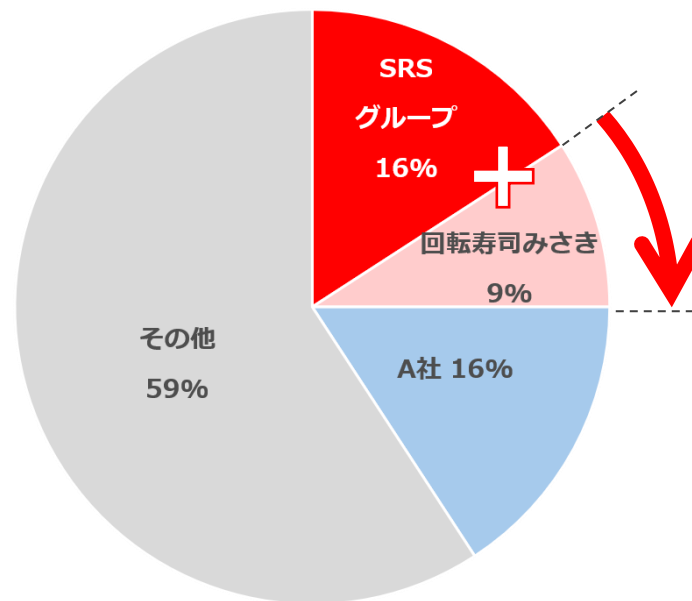
グルメ寿司のシェア首位を固める

- ・グルメ寿司の市場規模は約1,500億円と想定^{*10}
- ・SRSグループ+「回転寿司みさき」のシェア（単純合計）はグルメ寿司の約**1/4**となり、首位争いから抜け出す^{*10}
- ・さらなる圧倒的No.1を目指して、今後もグルメ寿司の出店を積極的に推進していく計画

これまでのグルメ寿司シェア



SRSグループ+「回転寿司みさき」のグルメ寿司シェア（単純合計）



出店機会の拡大と、人材の獲得

(1)出店可能な店舗立地の拡大

郊外ロードサイドが多いSRSグルメ寿司とは異なり、「回転寿司みさき」は駅近・商業施設に小面積で出店でき、少人数で運営可能

- ・首都圏以外の地域においても、当社グループでこれまで出店しきれなかった立地にも、「回転寿司みさき」で出店できる可能性が広がる

(2)貴重な人材、すし職人の獲得

- ・グルメ寿司の店舗運営、本部運営に携わる人材および寿司職人を当社グループの仲間として迎え、人的資本を早期に充実
- ・当社グループのグルメ寿司のさらなる事業拡大、成長加速の基盤となる

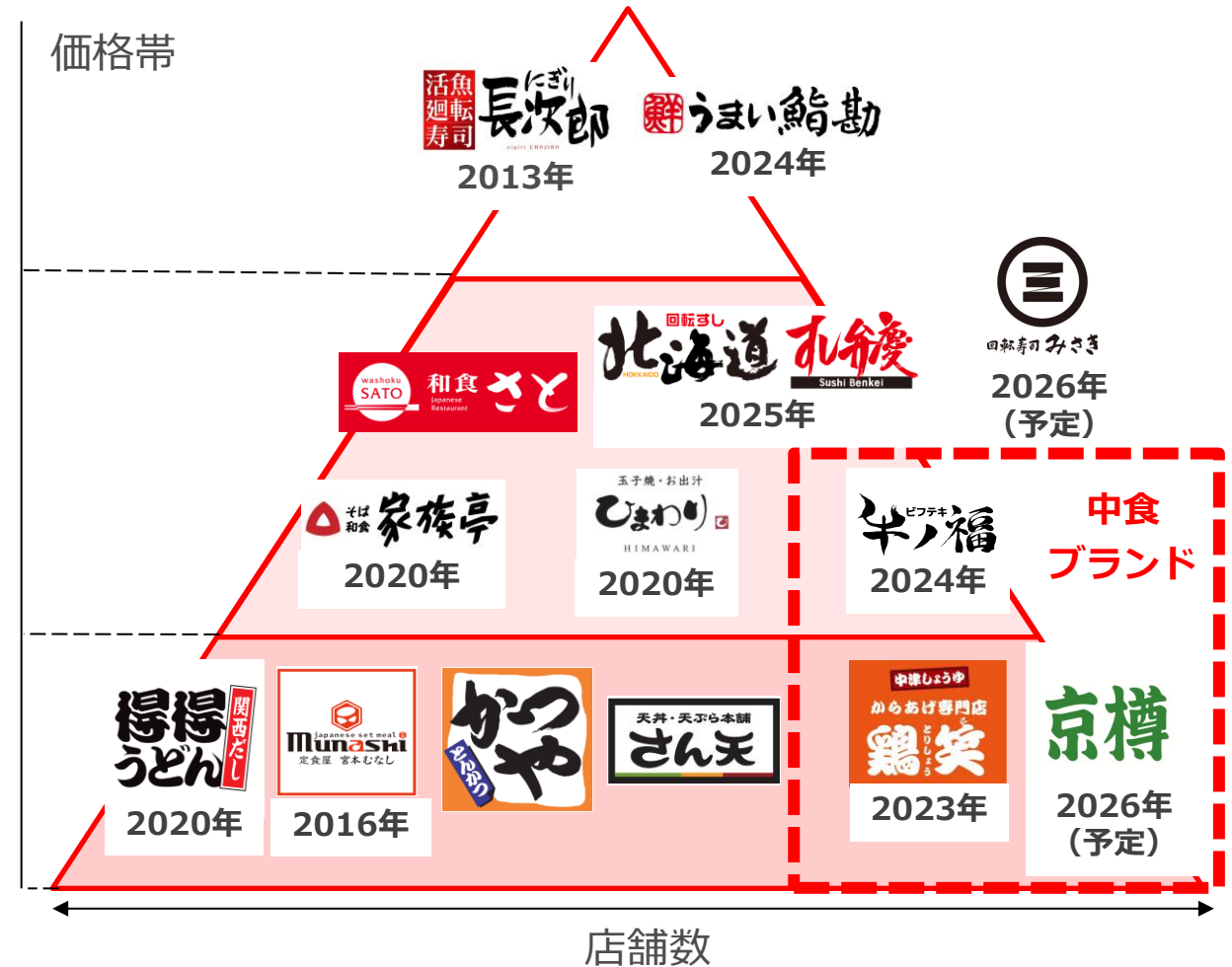
^{*10} グルメ寿司の市場規模、シェアは当社推計。上記「回転寿司みさき」には関連する複数ブランドを含む

戦略的意義(2)「第3、第4の収益の柱」の1つとなる中食強化

中食のさらなる充実

- ・テイクアウトすし専門店として高い知名度と長い歴史に裏付けられたブランド力を有し、首都圏中心、駅近・駅ナカ、商業施設、百貨店などの立地で中食を展開する「京樽」がSRSグループに加わり、中食ブランドを強化
- ・「京樽」が有するブランド資産と、当社グループの商品開発や経営ノウハウを融合し、ブランド価値のさらなる向上を図る
- ・事業・店舗運営を支える貴重な人材を新たな仲間として迎え入れ、ともに中食事業を発展させ、重点戦略の「第3、第4の収益の柱」の1つとして確立を目指す

ブランドポートフォリオ（SRSピラミッド）*11



*11 西暦年はグループ入りした年（予定を含む）を表す

製造・セントラルキッチン機能の活用、強化

- ・対象会社の製造工場（セントラルキッチン）は、SRSグループにとって最大の製造拠点となる
- ・これまで製造・商品供給してきた寿司および外商事業を引き継ぎ、事業を継続
- ・対象会社の製造工場は十分なキャパシティを有し、グループ全体の供給拠点として機能を拡充させることが可能である。
- ・最大事業である「和食さと」をはじめとする当社グループ各ブランドへの供給体制を構築し、グループシナジーの最大化を図る

本部機能強化

- ・株式会社京樽の人材を新たな仲間として迎え、当社グループの本部機能、人員を強化する
- ・今後は、財務経理、商品調達・仕入れ（MD）、人事、情報システムなどで、当社グループと株式会社京樽の機能統合、連携を進め、それを支える本部機能強化を加速

本件M&Aによるシナジー創出

- SRSグループでは、和食に特化したM&Aを10年以上継続し、豊富な実績をもつ
- 各ブランドの強み・個性を活かし、さらに伸ばしていくとともに、SRSグループと株式会社京樽で協働して効率化・強化し合い、統合後の業績を引き上げていく

主なテーマ		シナジー創出の機会と取り組み例
グルメ寿司	グルメ寿司各ブランドとのシナジー	商品開発、食材調達、人材育成などの分野において、グループ内のグルメ寿司ブランドとのシナジーを創出
	出店可能な立地の拡大	駅近・駅ナカ、商業施設、百貨店などへの出店機会拡大、出店計画の最適化促進など
供給機能本部体制	グループ全体での製造工場活用	製造工場に投資を行い、グループ全体へ製品を供給できる体制を構築し、グループシナジーを最大化
	本部機能の統合・強化・効率化	業務システムの共同利用拡大、本部機能の効率向上・強化など重複する業務を統合し間接コストの低減を図る
企業プレゼンス	首都圏での店舗網拡大	課題であった首都圏での店舗網が拡大され、全国的な企業プレゼンスが向上する
	新たな投資家層の拡大	株主優待等を通じた店舗利用の機会が増加し、地域的な株主層の広がりが期待される
	ブランド育成	各ブランドの独自性を尊重しながら、多くのブランドを成長させてきた実績を積み重ねグループとしての企業プレゼンスを向上させる

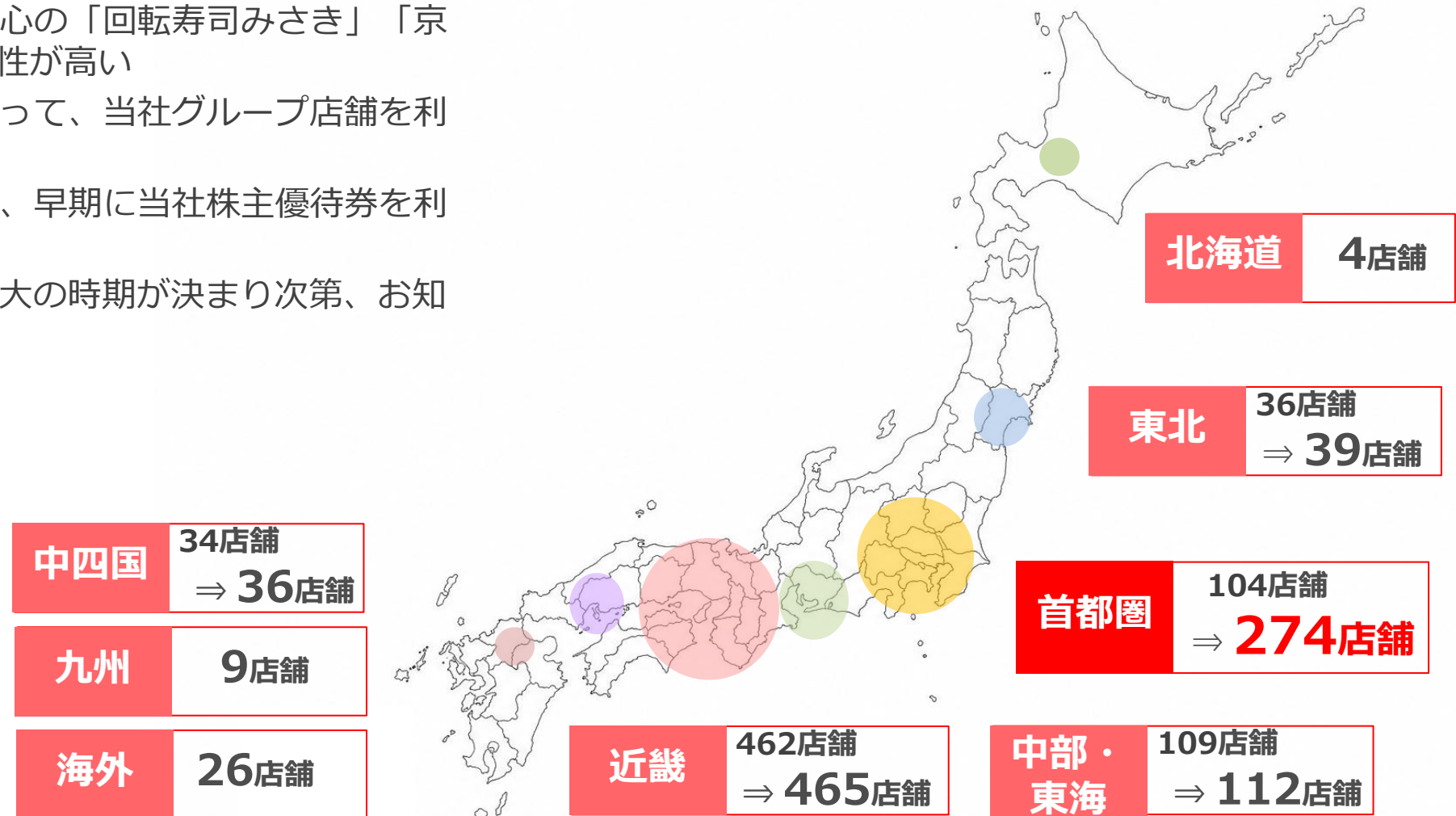
首都圏の投資家のみなさまへ

首都圏の店舗数が約2.6倍と大幅に増加^{*12}

- ・ 駅近・駅ビルや商業施設中心の「回転寿司みさき」「京樽」は都市部生活者の利便性が高い
- ・ 首都圏の投資家の皆様にとって、当社グループ店舗を利用しやすくなる環境が実現
- ・ 対象会社の店舗においても、早期に当社株主優待券を利用できるよう準備を進める

※株主優待券の利用店舗拡大の時期が決まり次第、お知らせ予定

当社グループの店舗数変化（単純合計）



^{*12} 当社グループと株式会社京樽の店舗数を単純合計したもの。店舗数は2026年6月末時点。首都圏には山梨県を含む。中部・東海に三重県を含む。

当社が開示する当社グループの計画、見積もり、予測、予想、戦略、方針、目標その他の将来情報については、開示時点における当社の判断または仮定に基づくものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約、または保証するものではありません。実際の当社グループの業績等の結果は、様々なリスクや不確定要因により、開示情報の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。

また、本資料の利用により生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。